

令和3年度

**男女共同参画の視点からの新型コロナウイルス感染症影響下における
仕事・生活に関する調査結果**

令和3年 12 月

I. 調査概要

1. 調査目的

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナ」という。)の拡大により仕事や生活の様々な場面で大きな影響が出ています。

このような状況の中、今後の男女共同参画施策、とりわけ相談事業に関する取り組みの参考とするため、新型コロナが仕事や生活に与えた影響や、困ったことがあった場合の行動、相談ツールとしても利用されている SNS の利用状況等について調査を実施しました。

2. 調査方法

インターネット・モニターに対するアンケート調査

3. 調査期間

令和3年8月12日(木)～8月15日(日)

4. 調査回答者

大阪市在住の20歳以上の男女1200人
年代ごとに均等割り付け

※本アンケートの回答者は民間調査会社に登録するインターネットモニターであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「市民全体の縮図」ではありません。そのため、調査結果は「市民全体の状況」を直接的に示すものではなく、あくまで回答者の回答状況にとどまります。

5. 主な調査項目

- ・働き方、生活の変化
- ・仕事、生活に関して困っていること
- ・相談行動について

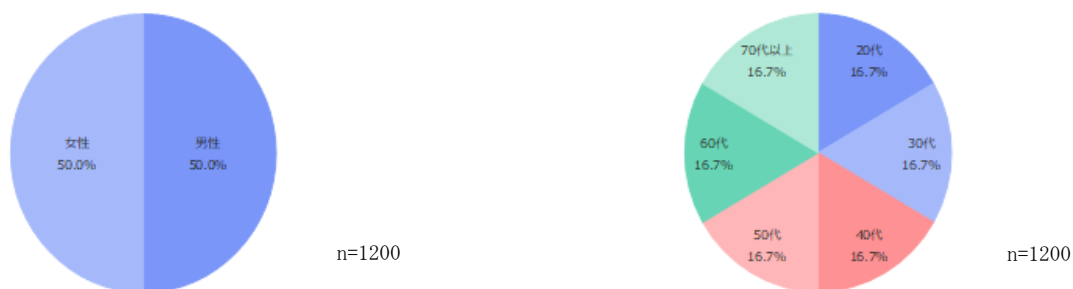
6. 報告書内で使用する用語、定義

	分類		内容
職業	有職者	正規	会社勤務(一般社員、管理職)、会社経営(経営者、役員)を
		非正規	派遣社員、契約社員
		自営業	自営業(商工サービス)
		その他	専門職(弁護士、税理士、医療関連の専門職)を選択した人
	無職者	専業主婦・主夫	専業主婦・主夫
		無職	無職、学生
世帯別	配偶者と同居		配偶者と同居している人
	配偶者と非同居		配偶者がいない人、または、同居していない人
	子育て世帯(末子が未就学児以下)		末子年齢が未就学の子とも同居している人。それ以上の子どももいる場合を含む
	子育て世帯(末子が中学生以下)		末子年齢が中学生以下の子とも同居している人。それ以上の子どももいる場合を含む

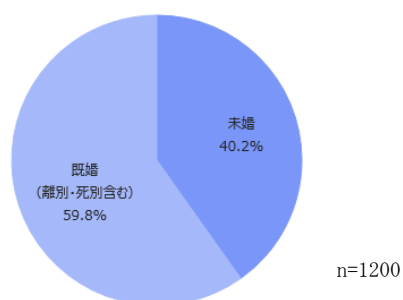
Ⅱ. 調査結果

1. 基本属性

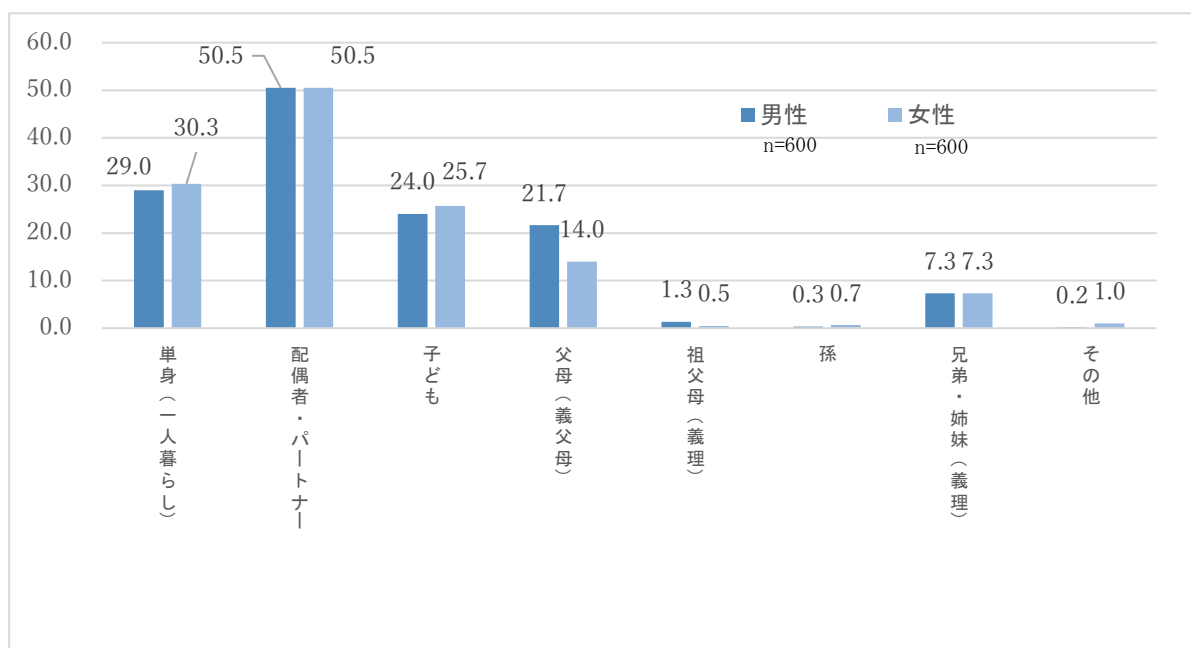
1) 性別・年代



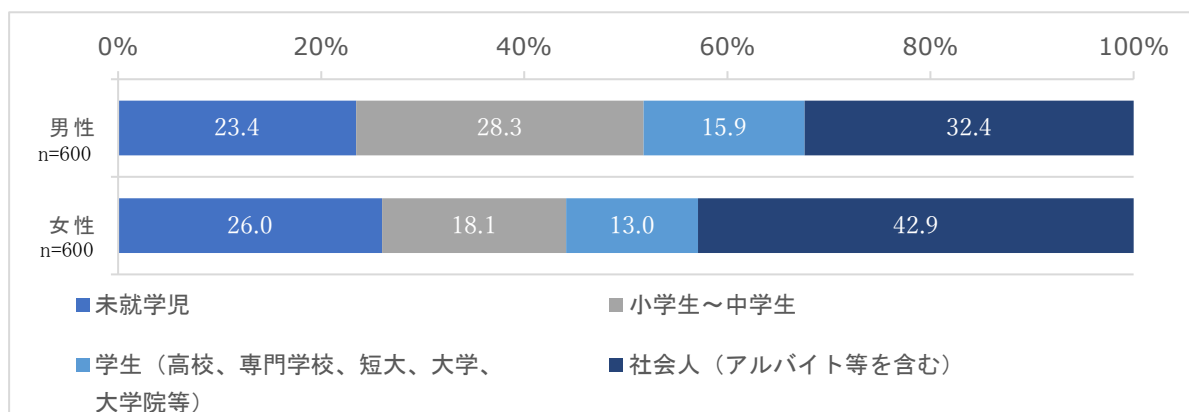
2) 婚姻状況



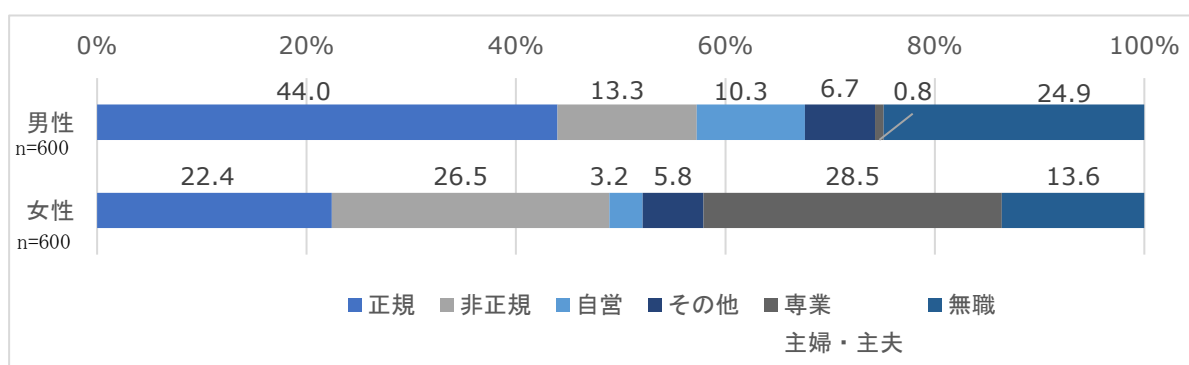
3) 同居家族



4) 末子の年齢



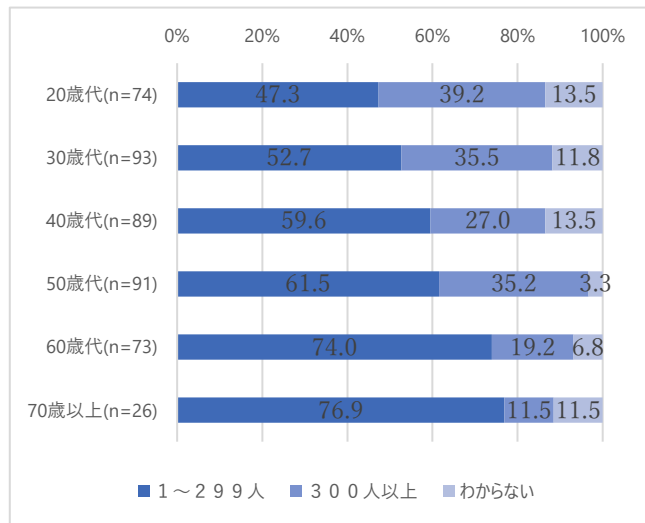
5) 職業・雇用形態



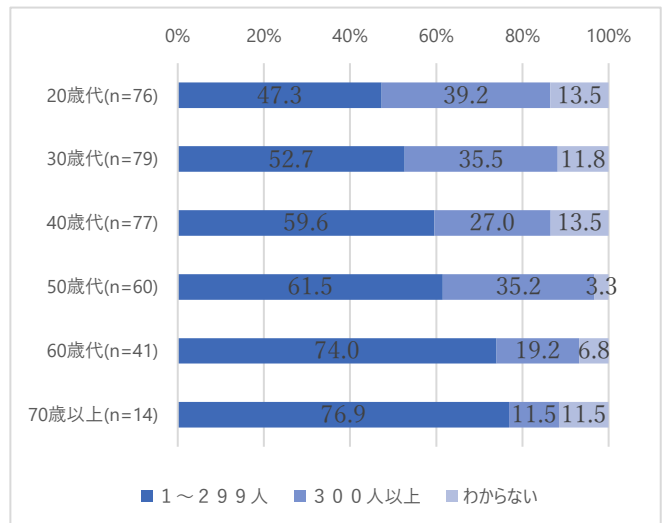
		正規			非正規		自営	その他				専業 主婦・主夫	無職	
		会社勤務（一 般社員）	会社勤務管 理職	会社経営（経 営者・役員）	派遣社員契 約社員	パート・アル バイト	自営業・商工 サービス	専門職（弁護 士・税理士 等）	専門職（医師 等の医療関連 の専門職）	専門職（医師 ・体職員 ・公務員・教職 員・非営利団 体職員）	その他の職業	専業主婦・主 夫	無職	学生
全体 n=1,200		26.5	4.8	1.9	5.8	14.1	6.8	0.8	1.9	1.9	1.7	14.7	17.3	2.0
男性 n=600		32.5	7.8	3.7	4.8	8.5	10.3	0.7	1.5	2.7	1.8	0.8	22.7	2.2
女性 n=600		20.5	1.7	0.2	6.8	19.7	3.2	0.8	2.3	1.2	1.5	28.5	11.8	1.8
男性	20代	51.0	2.0	－	3.0	2.0	2.0	－	－	－	14.0	－	13.0	13.0
	30代	48.0	6.0	2.0	4.0	5.0	7.0	－	1.0	2.0	15.0	1.0	－	6.0
	40代	39.0	17.0	2.0	4.0	6.0	12.0	－	1.0	2.0	5.0	－	－	11.0
	50代	40.0	15.0	6.0	3.0	6.0	15.0	－	－	1.0	4.0	1.0	－	8.0
	60代	16.0	5.0	10.0	2.0	8.0	16.0	－	1.0	4.0	7.0	－	－	27.0
	70代以上	1.0	2.0	2.0	－	2.0	10.0	－	1.0	－	6.0	3.0	－	71.0
女性	20代	32.0	2.0	－	2.0	8.0	2.0	－	1.0	5.0	22.0	9.0	11.0	4.0
	30代	41.0	5.0	－	－	6.0	2.0	－	－	2.0	22.0	18.0	－	3.0
	40代	28.0	2.0	－	2.0	10.0	2.0	－	2.0	2.0	29.0	17.0	－	6.0
	50代	16.0	1.0	－	－	12.0	2.0	－	2.0	4.0	20.0	25.0	－	15.0
	60代	6.0	－	1.0	2.0	5.0	7.0	－	－	1.0	17.0	44.0	－	15.0
	70代以上	－	－	－	1.0	－	4.0	－	－	－	8.0	58.0	－	28.0

6) 勤務先の従業員規模

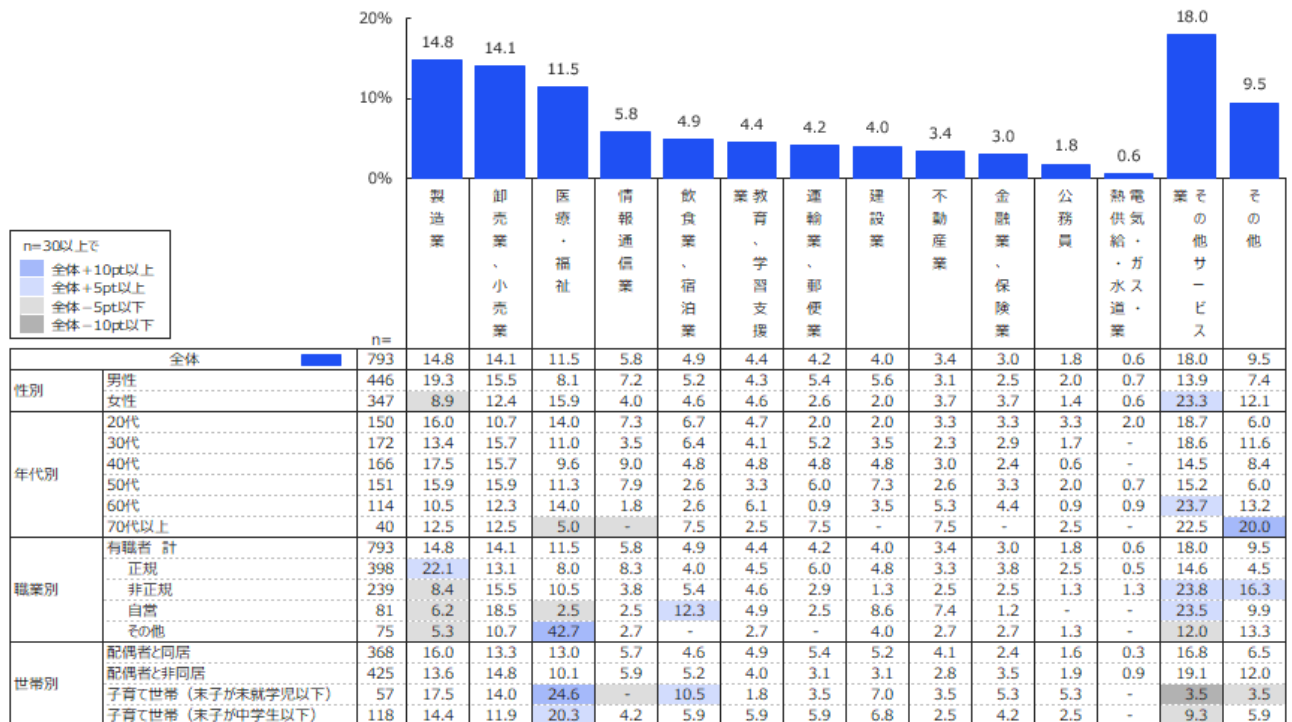
男性 (n=446)



女性 (n=347)



7) 業種



2. 仕事に関する状況

1) 収入の変化

個人年収の増減

Q3_1 ご自身の個人収入について、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症という）拡大前（2019年12月）と現在を比べて変化はありましたか。

			(%)				
			減少した	なくなった	変わらない	増加した	わからない・答えたくない
全体			26.1	2.4	61.0	4.4	6.1
性別	男性	600	27.3	2.2	58.8	5.8	5.8
	女性	600	24.8	2.7	63.2	3.0	6.3
年代別	20代	200	24.5	4.5	54.0	11.5	5.5
	30代	200	25.5	4.5	60.0	3.0	7.0
	40代	200	29.5	1.5	58.5	4.0	6.5
	50代	200	30.0	2.0	56.5	6.0	5.5
	60代	200	31.0	1.0	60.0	2.0	6.0
	70代以上	200	16.0	1.0	77.0	2.0	6.0
職業別	有職者 計	793	30.8	1.5	57.6	6.2	3.9
	正規	398	25.1	2.5	61.6	9.5	1.3
	非正規	239	33.1	0.4	58.6	2.9	5.0
	自営	81	46.9		40.7	1.2	11.1
	その他	75	36.0	1.3	52.0	4.0	6.7
	無職 計	407	17.0	4.2	67.6	1.0	10.3
	専業主婦・主夫	176	13.6	3.4	72.2	1.7	9.1
世帯別	無職	231	19.5	4.8	64.1	0.4	11.3
	配偶者と同居	606	26.2	2.3	62.0	4.1	5.3
	配偶者なし、または非同居	594	25.9	2.5	59.9	4.7	6.9
	子育て世帯（末子が未就学児以下）	73	17.8	8.2	67.1	5.5	1.4
世帯別	子育て世帯（末子が中学生以下）	140	22.1	5.0	65.0	6.4	1.4

- 個人年収について、「減少した」と回答した人は男女ともに 25%前後となっている。「なくなった」と回答した人は、男女ともに 2%台、「変わらない」と回答した人は男性で 58.8%、女性で 63.2%となっている。
- 自営業に関して「変わらない」と回答した人は 40.7%、「減少した」と回答した人は 46.9%と「減少した」と回答した人の方が多い。
- 非正規雇用者では 33.1%の人が「減少した」と回答しており、正規雇用者（25.1%）よりも割合が高い。
- 子育て世帯では、全体よりも「減少した」と回答した人の割合は少ない。しかし、「なくなった」と回答した人は、末子が未就学児の子育て世帯では 8.2%、末子が中学生以下の子育て世帯でも 5.0%となっており、いずれも全体よりも割合が高い。

世帯年収の増減

Q3.2 世帯全体の収入について、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症という）拡大前（2019年12月）と現在を比べて変化はありましたか。

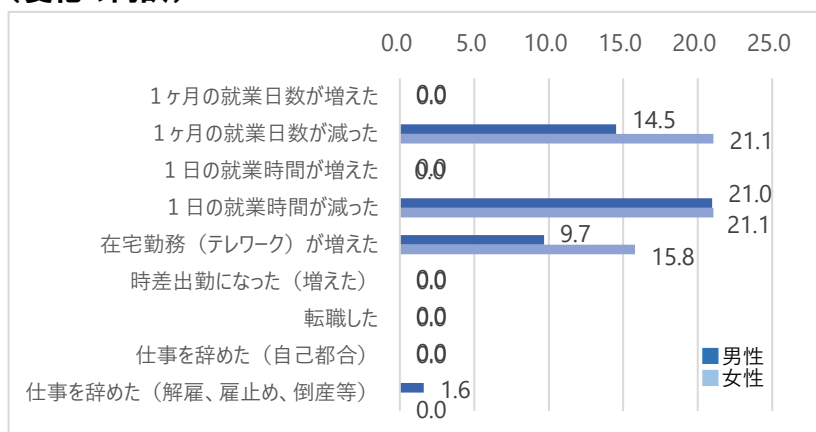
			(%)				
			減少した	なくなった	変わらない	増加した	わからない・答えたくない
全体			28.4	0.7	57.8	4.0	9.0
性別	男性	426	28.2	0.5	57.3	5.4	8.7
	女性	418	28.7	1.0	58.4	2.6	9.3
年代別	20代	131	20.6	1.5	58.8	4.6	14.5
	30代	124	25.8	0.8	58.9	4.0	10.5
	40代	146	32.9		54.1	4.8	8.2
	50代	138	38.4	0.7	49.3	8.0	3.6
	60代	151	33.8	1.3	55.6	3.3	6.0
	70代以上	154	18.8		69.5		11.7
職業別	有職者 計	532	32.5	0.4	55.3	5.3	6.6
	正規	257	30.4	0.8	57.2	9.3	2.3
	非正規	163	27.6		59.5	1.8	11.0
	自営	59	42.4		45.8		11.9
	その他	53	47.2		43.4	1.9	7.5
	無職 計	312	21.5	1.3	62.2	1.9	13.1
	専業主婦・主夫	169	23.7	1.2	62.7	3.6	8.9
	無職	143	18.9	1.4	61.5		18.2
世帯別	配偶者と同居	606	31.4	1.0	57.4	4.6	5.6
	配偶者なし、または非同居	238	21.0		58.8	2.5	17.6
	子育て世帯（末子が未就学児以下）	73	30.1	2.7	60.3	5.5	1.4
	子育て世帯（末子が中学生以下）	140	30.0	1.4	59.3	7.9	1.4

- 世帯年収について、「減少した」と回答した人は男女ともに 28% 台となっている。「変わらない」と回答した人は男性で 57.3%、女性で 58.4% となっており、性別による差異はみられない。
- 世帯年収を年代別にみると、20～50 代では年代が上がるにつれて「減少した」と回答した人の割合が高くなっている。50 代が最も高く、38.4% となっている。
- 職業別で「Q3.1 個人年収の増減」と比較すると、個人年収に関しては非正規雇用者の方が「減少した」と回答した人の割合が高かったものの、世帯年収に関しては、正規雇用者の方が「減少した」と回答した人の割合が高い。
- 職業別にみると、「減少した」と回答した人は、自営では 42.4%、その他で 47.2% と、他属性と比較して割合が高くなっている。

[性別×職業・自営]

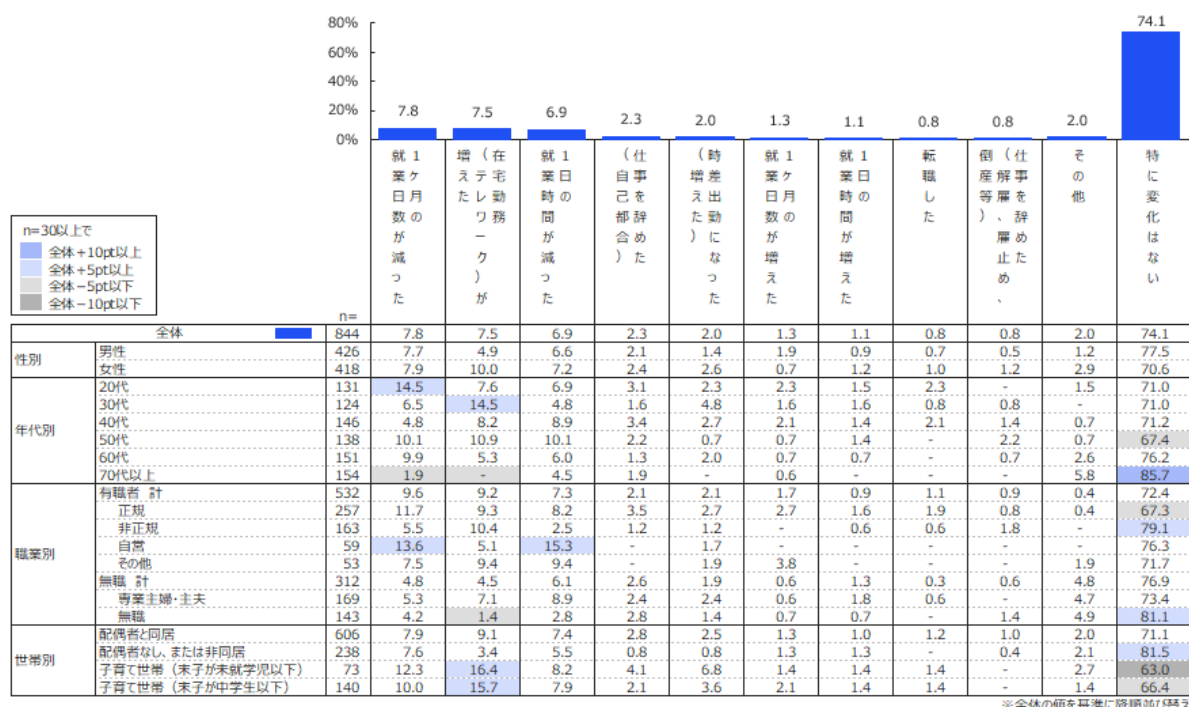
	男性 (n=62)	女性 (n=19)
変化があった	35.5	36.8
特に変化はない	64.5	63.2

(変化の内訳)



- 全体では65%の人が「特に変化はない」と回答している。
- 正規雇用者の回答で最も多かったのは「在宅勤務が増えた」、次いで「就業日数が減った」となっている。
- 非正規雇用者で回答が最も多かったのは「就業日数が減った」、次いで「就業時間が減った」となっている。
- 「1ヶ月の就業日数が減った」と回答した正規雇用者は11%、非正規雇用者は22%であった。
- 「在宅勤務が増えた」と回答した正規雇用者は23%、非正規雇用者は10%となっている。
- 自己都合で仕事を辞めた人は、非正規の女性が6.3%と最も高く、他属性は0～1%台にとどまっている。
- 自営で回答が最も多かったのは「就業時間が減った」、次いで「就業日数が減った」となっている。

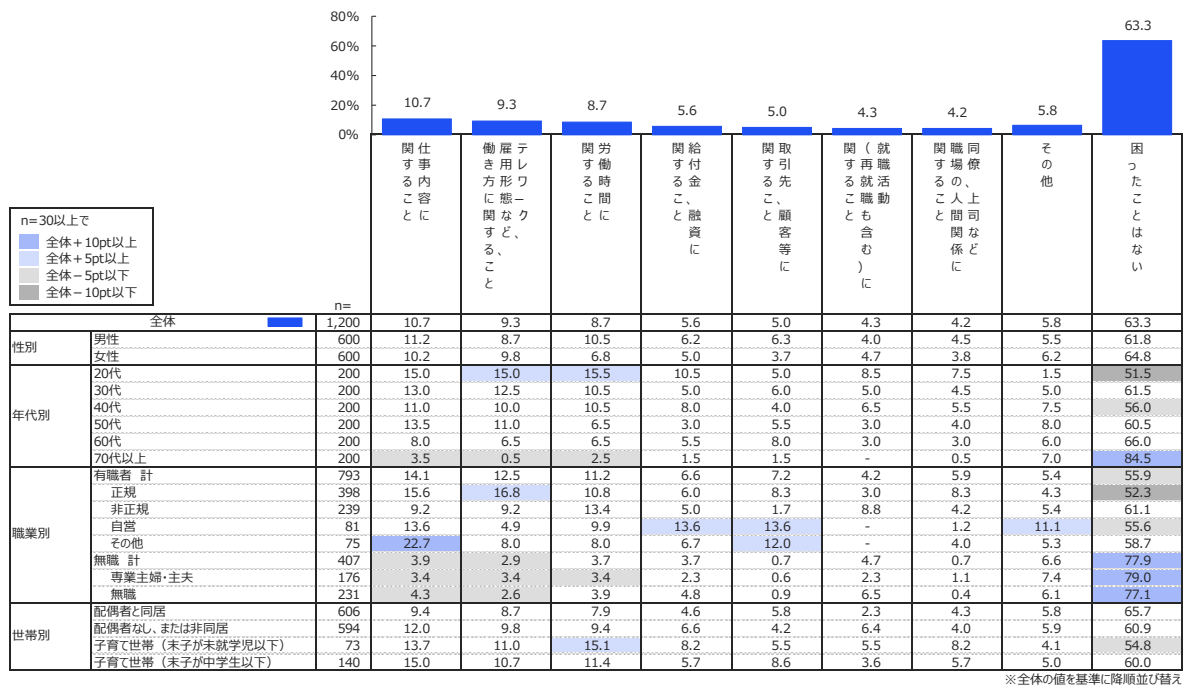
Q5 あなたの家族（主に配偶者・パートナー）の働き方として、感染症拡大前（2019年12月）と現在とを比較して変化はありましたか。（複数回答可）



- いずれの属性でも概ね60～70%の人が「特に変化はない」と答えている。
- 子育て世帯では「在宅勤務が増えた」と回答した人の割合が全体の約2倍となっており、「特に変化はない」と回答した人の割合は全体平均より10ポイント近く少なくなっている。

3) 仕事や働き方に関する困ったこと

Q6 感染症影響下において、仕事や働き方に関して困ったことをお答えください。(複数回答可)

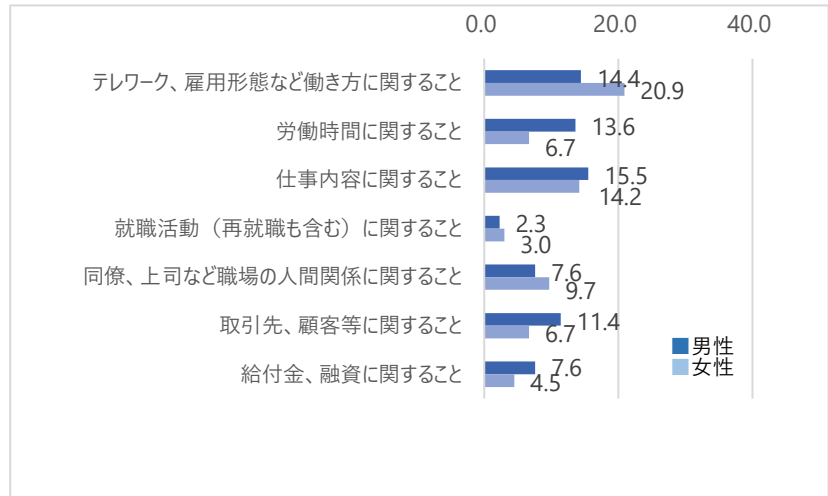


[性別×職業・正規]

(%)

	男性 (n=264)	女性 (n=134)
困ったことがあった	49.2	44.8
困ったことはない	50.8	55.2

(困ったことの内訳)

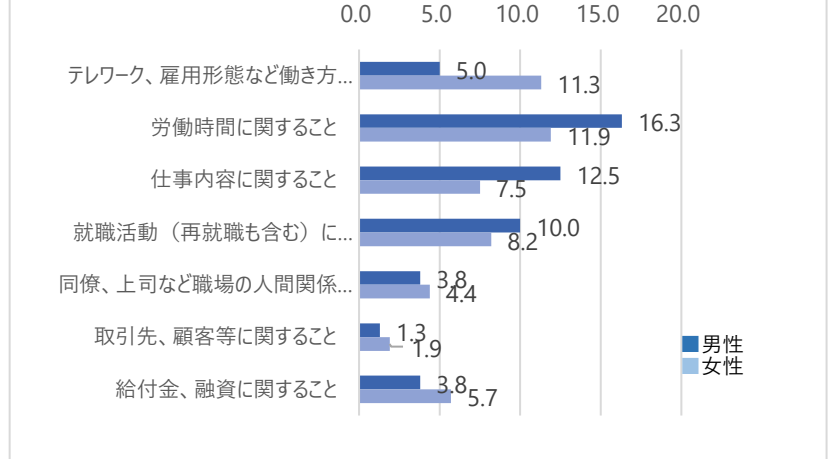


[性別×職業・非正規]

(%)

	男性 (n=80)	女性 (n=159)
困ったことがあった	37.5	39.6
困ったことはない	62.5	60.4

(困ったことの内訳)

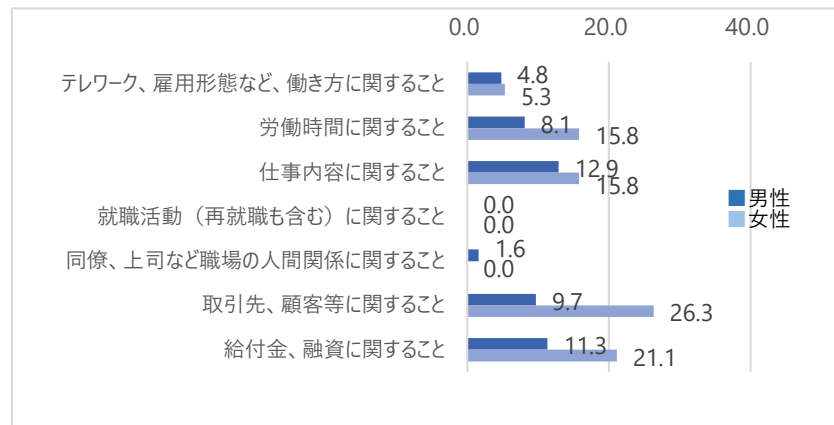


[性別×職業・自営]

(困ったことの内訳)

(%)

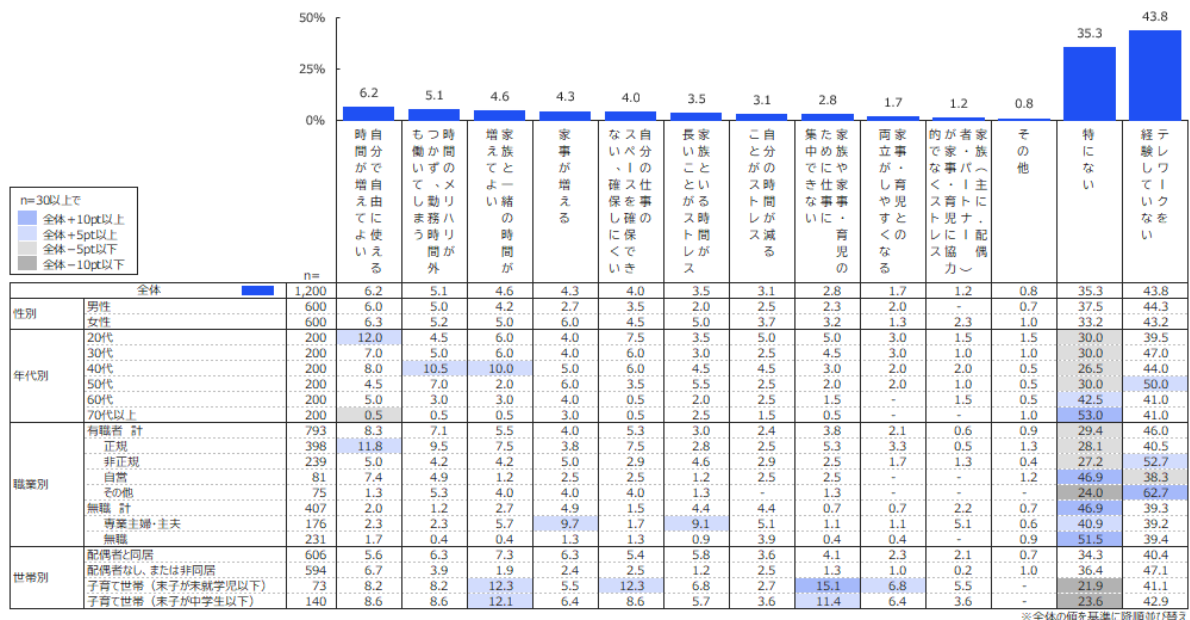
	男性 (n=62)	女性 (n=19)
困ったことがあった	41.3	57.9
困ったことはない	59.7	42.1



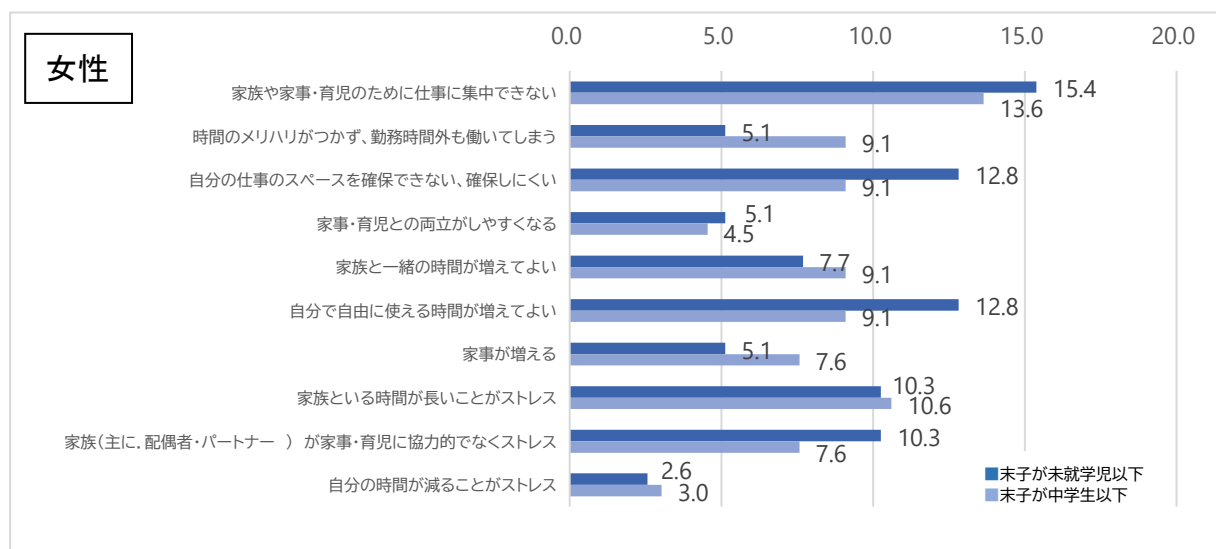
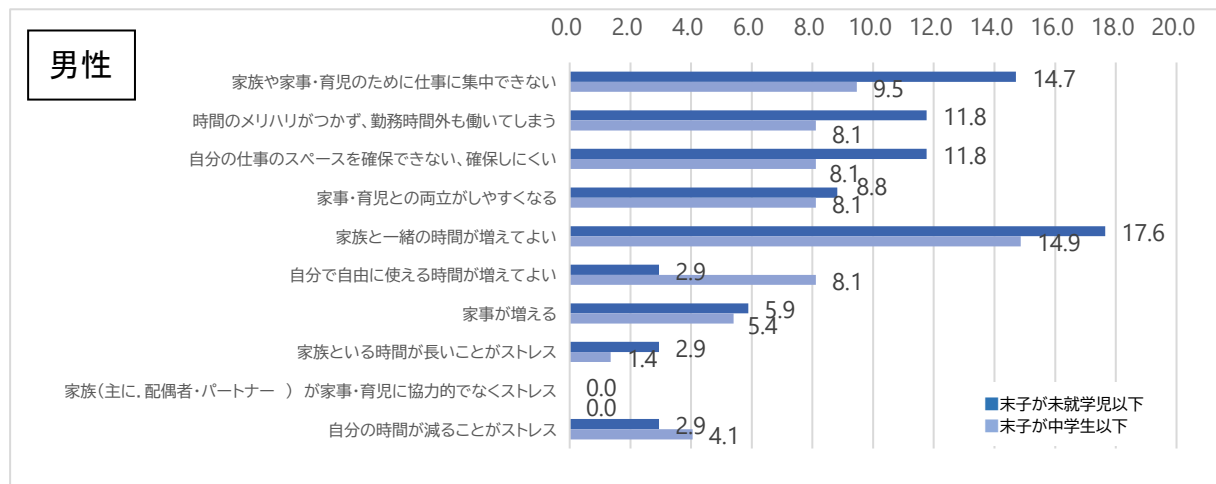
- ・ 非正規雇用者よりも正規雇用者の方が、男女ともに何らかの困ったことを挙げている割合が高い。
- ・ 正規雇用者、非正規雇用者ともに、男女に差異がみられるのは「テレワーク、雇用形態など、働き方に関すること」であり、女性の方が困ったこととして挙げている割合が高い。一方、男性の方が困ったこととして挙げている割合が高いのは「労働時間に関すること」となっている。
- ・ 若い世代で「テレワーク、雇用形態など働き方に関すること」「労働時間に関すること」など、悩みの傾向がみられる。
- ・ 子育て世帯は全体と比較してどの項目も回答した割合が高い。特に末子が未就学児以下である世帯では、「労働時間に関すること」が全体と比較して2倍近い割合となっている。

4)テレワークで感じたこと

Q7 感染症の影響によって、あなた自身、または、家族（主に配偶者・パートナー）がテレワークを経験し、あなたが感じたことについて、以下の中から当てはまるものすべてをお答えください。（複数回答可）



〔性別×子育て世帯〕 ※回答者自身または家族がテレワークを経験している人のみで作表



- ・ テレワークを経験している有職者は「自分で自由に使える時間が増えてよい」(8%)とメリットとなる項目が挙げたものの、次いで多かったのは「時間のメリハリがつかず、勤務時間外も働いてしまう」(7%)とデメリットも挙げられた。
- ・ 専業主婦・主夫では「家事が増える」「家族という時間が長いことがストレス」等、デメリットへの回答の方が多くみられた。
- ・ 子育て世帯では「家族や家事・育児のために仕事に集中できない」と回答した人の割合は全体平均の割合よりも約4倍高くみられた。
- ・ 子育て世帯で「家族と一緒にいる時間が増えてよい」と回答した人の割合は男性の方が高く、女性の約2倍前後差異がみられる。一方で「家族という時間が長いことがストレス」と回答した人の割合は女性の方が高く、男性の約3～5倍の差異がみられる。
- ・ 「家事・育児との両立がしやすくなる」と回答した人は男性の方が割合が高い。

5) 仕事や働き方などに関して困ったこと(一部抜粋)

Q8 感染症影響下において、仕事や働き方に関して困ったことを具体的に教えてください。(自由記述)

[仕事内容に関すること]

- ・突発で検査対象者が出た場合、勤務地・勤務予定の調整が急遽発生すること(男性・40代・正規)
- ・押印のためにだけ出勤すること(男性・30代・正規)
- ・営業社員が在宅して、派遣のアシスタントの私は会社に出勤しているので、何でも仕事をふられて仕事が増える(女性・50代・非正規)

[テレワーク、雇用形態など働き方に関すること]

- ・友人の会社は完全テレワークになっているところも多く、会社に疑念が生まれた(男性・20代・正規)
- ・テレワークが会社から推奨されているが、実際のところ在宅ですることがない(男性・30代・正規)
- ・テレワークの際に仕事終了後もだらだらと仕事をしてしまう(女性・30代・正規)
- ・夫婦揃ってテレワークだと、お互いにパーソナルスペースの確保が必要で難しい(女性・40代・非正規)
- ・主人のテレワークが増え、家にいられるのでストレス(女性・50代・非正規)

[労働時間に関すること]

- ・時短営業の影響で勤務時間が極端に減り、収入が激減したので困っている(女性・40代・非正規)
- ・時差出勤をしたかった(男性・20代・正規)

[取引先、顧客等に関すること]

- ・営業に出るか否かの瀬戸際が難しい(男性・20代・正規)
- ・接客を伴うのだが、感染対策を明らかにしていない客がいるのが困る(男性・20代・非正規)
- ・取引先の店舗縮小や閉店で全体的に仕事量が減った(女性・50代・非正規)

[就職活動に関すること]

- ・高齢者は仕事を希望しても雇ってもらえない(女性・60代・無職)
- ・転職活動時に合同面接会などが実施されず、活動を行いづらい(男性・20代・無職)

[同僚、上司など職場の人間関係に関すること]

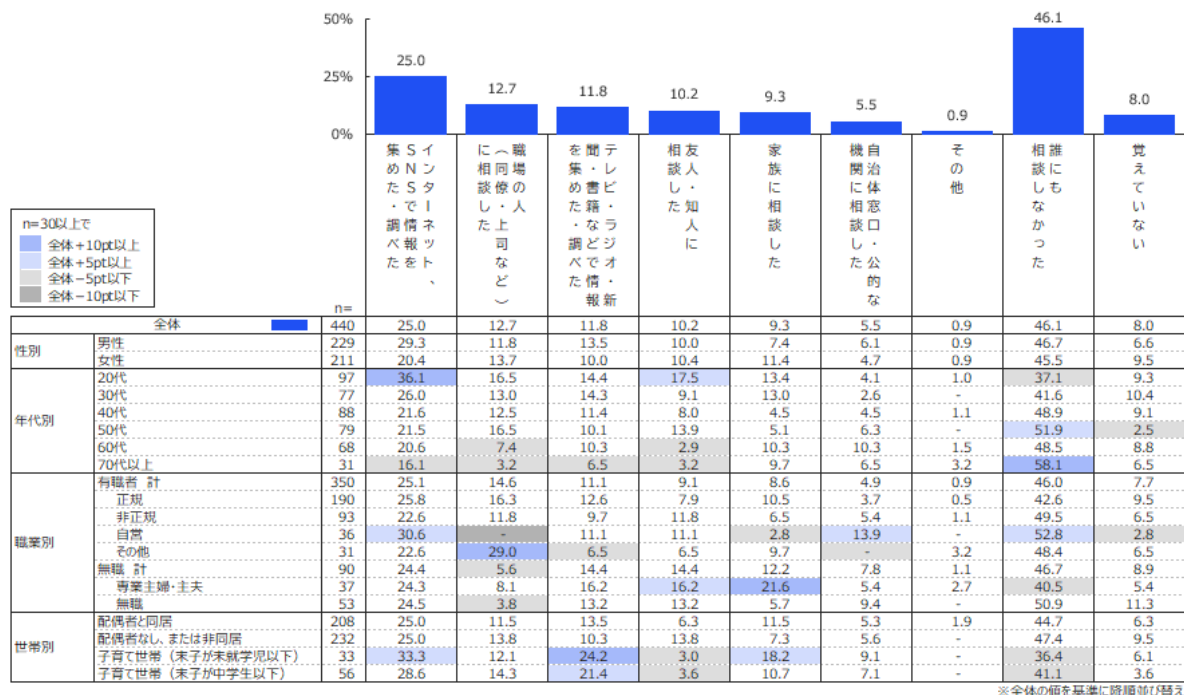
- ・意思疎通が取りにくい(男性・40代・正規)
- ・急に学校や幼稚園がお休みになると仕事場に迷惑がかかるから気を遣う(女性・30代・非正規)

[その他]

- ・工作中的のマスク着用が苦しい(男性・40代・正規)
- ・通勤や職場の換気や人との接触到に気を付けて消毒等しているが、いつ感染してもおかしくない状態の様な気がして精神的にしんどい(女性・60代・正規)
- ・どうしても仕事で外出しなくてはならないとき、家族が嫌がったこと。感染症を家に持ち込むのではないかと(女性・60代・無職)

6) 仕事や働き方で困ったことに対する行動

Q9 仕事や働き方に関して困ったことに対して、どのような行動をしましたか。(複数回答可)



- 全体で25%の人がインターネットやSNSにて情報収集を行っている。性別では、男性の方が割合が高い。年代別では、20代が最も割合が高い。
- 困ったことを「誰にも相談しなかった」と回答した人の割合は、男女差でありみられない。
- 家族等、身近な人に相談すると回答した割合は女性の方が高い。
- 未就学児を持つ子育て世帯は、家族に相談する人は全体よりも2倍近いポイントで相談している。「誰にも相談しなかった」と回答した人の割合も低く、困ったことに対して何らかのアクションを起こしている様子がうかがえる。
- 自治体窓口相談した人は、年代別では60代、職業別では自営業の人が多くみられた。